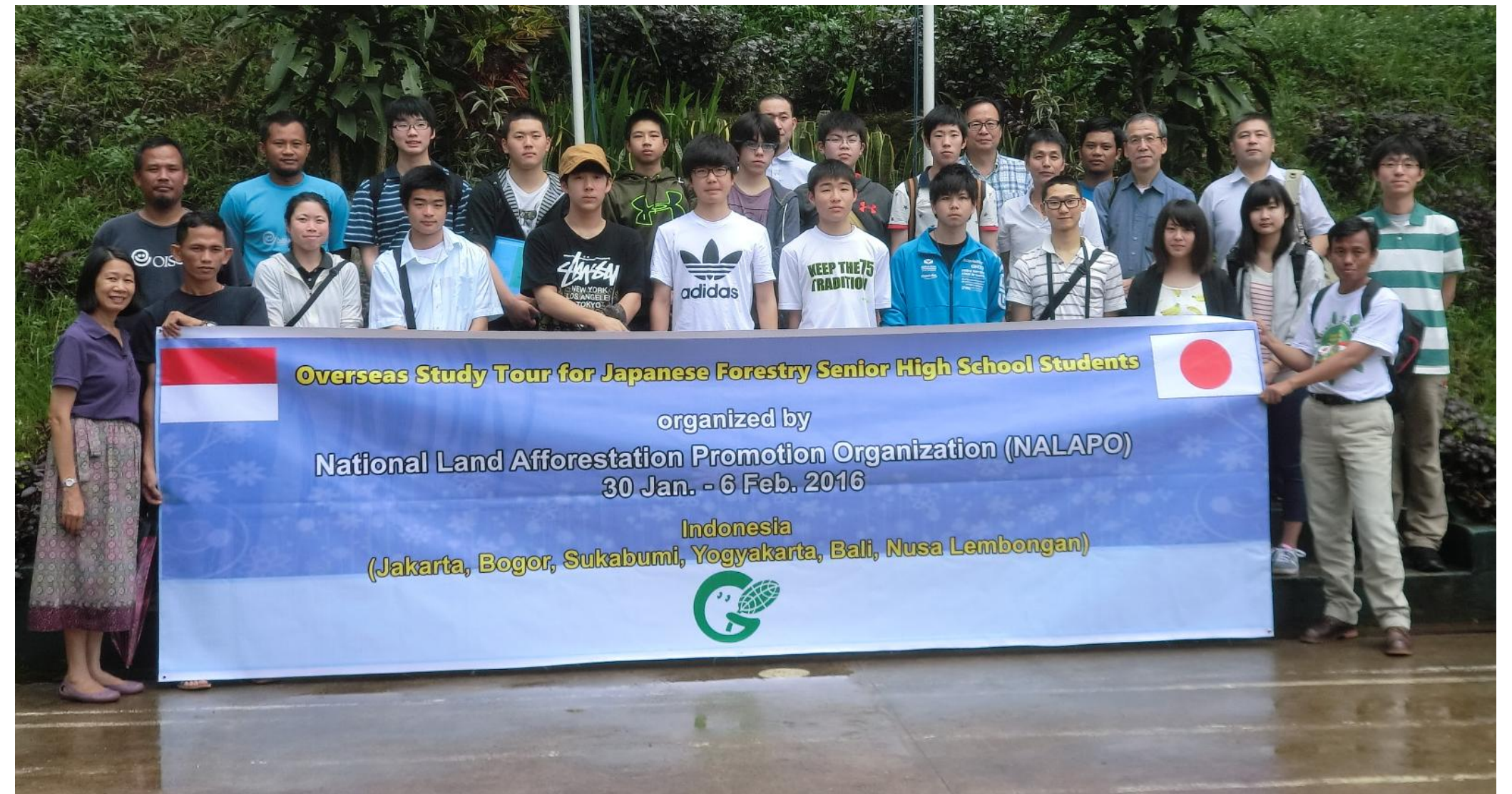


# インドネシアにおける緑化と環境教育の推進と 日本の高校生の国際交流事業 事例報告



2026/3/13

---

①オイスカについて

②水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進

③ 森林・林業専攻高校生 国際交流事業



---

# ①オイスカについて





(機構) **O rganization**  
(産業) **I ndustrial**  
(精神) **S piritual**  
(文化) **C ultural**  
(促進) **A dvancement**

1961年に日本で生まれた国際協力NGO

---



---

# 「子供の森」計画





学校単位で森づくりや学校菜園、地域の環境問題の解決のための取り組みなどを子どもたちを主役に据えて展開するプログラム

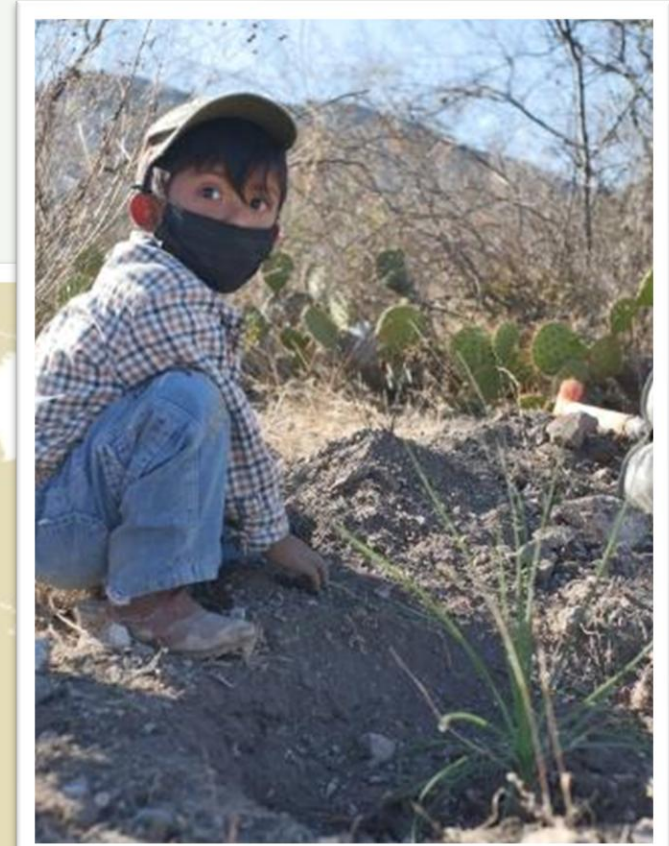
---

---

# インドネシアにおける「子供の森」計画



# 37の国と地域で5,670校が参加

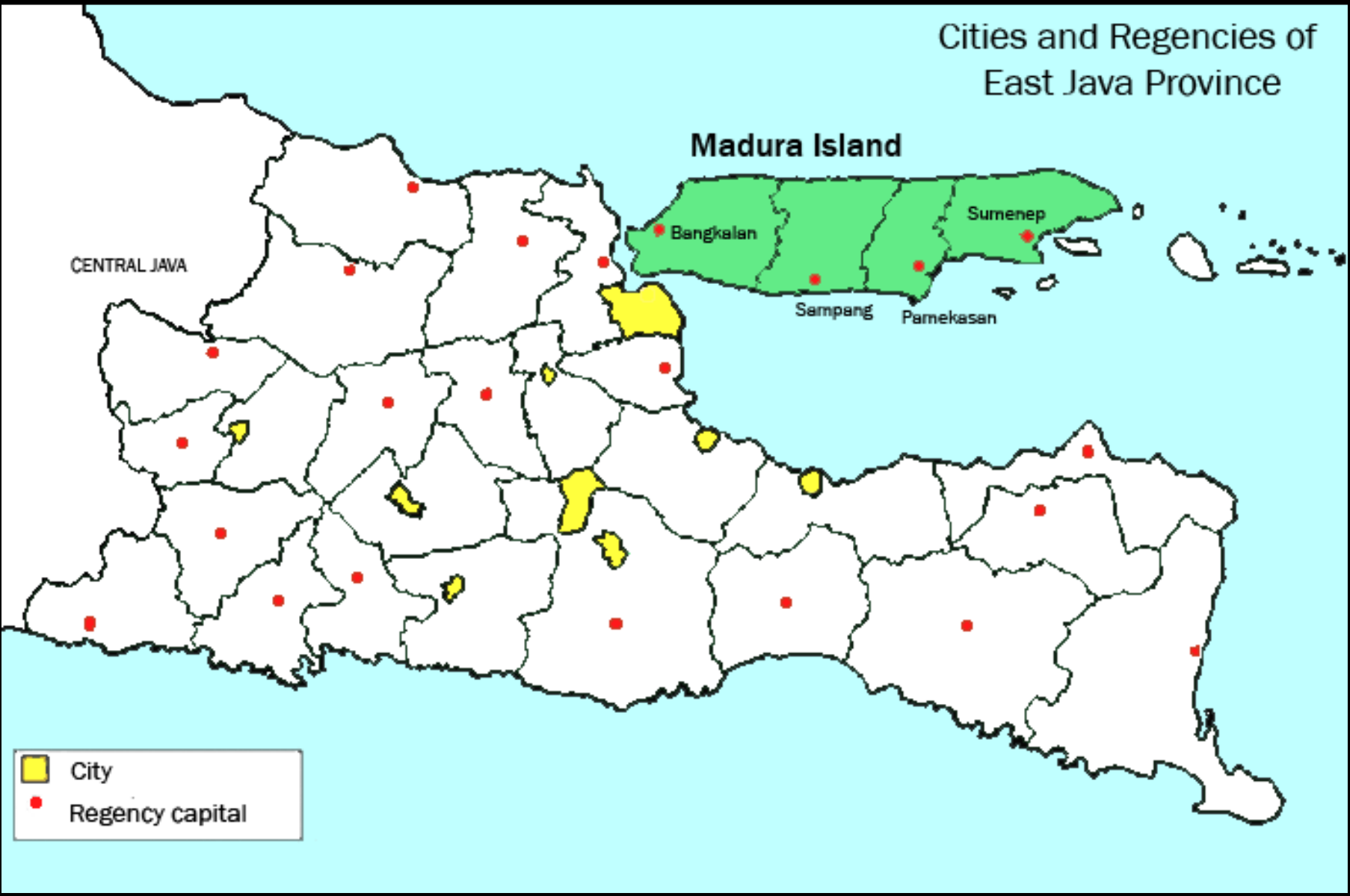


---

## ②水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進



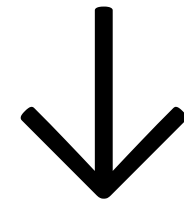
# 東ジャワ州 マドゥラ島 スメネプ県・パメカサン県



---

- ・大きな河川がなく、石灰岩を中心とした地質で保水力が低い
  - 製塩業やタバコ栽培、牧畜業などが主な産業である
  - 東ジャワ州の中でも貧困率が高く、開発が遅れている

- ・降水量が少なく、乾期には数カ月間雨が降らないこともある一方、雨期には洪水被害が出る状況
  - 政府による十分な水資源管理が進んでいない



水問題の改善と自然の力を活かした防災のため、環境教育と雨水貯蔵設備を支援しつつ、学校及び沿岸部で郷土種の育苗と植林を展開

---

---

## ■事業概要

対象：23の学校および周辺地域

児童生徒、教員、住民など約2210人

内容：郷土樹種の苗木づくり、植林（陸地、沿岸部）、環境教育、  
水保全に関する学習、雨水貯水施設設置













# 実施事業とSDGs(持続可能な開発目標)との関連について



---

## ③ 森林・林業専攻高校生 国際交流事業



---

■趣旨：地球温暖化をめぐる森林保全や国際協力の推進など、森林・林業を取り巻く状況がグローバル化する中で、将来我が国の森林・林業の担い手となる青少年を国際的な視野を有する人材へと計画的に育成することが重要。

東南アジアの代表的な森林・林業国であるインドネシアにおいて森林の現況、植林活動への参画、日本のNPOのプロジェクトの現状などを学習するとともに、現地高校生との交流を通じて異文化圏の人々の理解を進めることの楽しさを学ぶことを目的としている。

※全国高等学校森林・林業教育研究協議会との連携・協力の下に実施

平成29年度実施報告書より抜粋

---

## ■参加実績

年度	校数	参加人数 (うち引率教員)
平成27年	5	18 (4)
平成28年	6	20 (5)
平成29年	6	20 (6)
平成30年	5	20 (5)
令和元年	6	18 (6)

5年間で**15**校から

**70**名の高校生が参加！

## ■参加校(回数)

- 北海道 岩見沢農業 (1) / 帯広農業 (2)
- 青森県 五所川原農林 (1)
- 岩手県 盛岡農業 (1)
- 群馬県 勢多農林 (1)
- 茨城県 大子清流 (2)
- 長野県 木曾青峰 (5) / 上伊那農業 (1)
- 京都府 北桑田高等学校 (4)
- 鳥取県 智頭農林 (4)
- 岡山県 勝間田 (1)
- 愛媛県 伊予農業 (2)
- 徳島県 那賀 (1)
- 熊本県 芦北 (1) / 南稜 (1)













---

# 最後に

